

# 第2代院長 吉岡美国のアメリカ時代

関西学院大学社会学部教授・学院史編纂室長 赤江 達也

吉岡美国<sup>よしくに</sup>（1862-1948）は、1892年から学院史上最長の23年間にわたって第2代院長を務め、関西学院の基礎を築いた。30歳の若さで院長に就任する前の2年間（1890-1892）、吉岡はアメリカ合衆国南部テネシー州ナッシュヴィルのヴァンダビルト大学に留学している。

留学1年目の様子については、これまでも大学の友人・尹致昊<sup>ユンチホ</sup>（1865-1945）の日記を通じて知られてきた<sup>1</sup>。ここでは、留学2年目について新たな資料からわかってきたことを紹介したい。

## アメリカでの講演旅行——新聞記事から

留学1年目が終わった1891年の夏休み、吉岡はテネシー州から東へと向かい、ノースカロライナ州各地のメソヂスト教会で講演を行っている。同世代の内村鑑三（1861-1930）が『余はいかにしてキリスト信徒となりしか』で書いているように、当時のアメリカのキリスト教会では異教国の改宗者への関心が高かった。

現地の新聞によれば、吉岡は1891年8月30日の日曜日、ノースカロライナ州の州都ローリーの中心部にあるエデントン・ストリート教会で朝と夜に登壇している<sup>2</sup>。

朝の礼拝では、日本伝道の状況を語った。日本は新しく実り多い宣教地域であり、多くのキリスト教団体の働きによって魂の救済と道徳生活の向上が実現されつつある。だが、国民の多くはいまだキリスト教を知らないとして、日本伝道への共感と援助と祈りの必要を訴えた。

夜の講演会では、日本の習俗や文化を紹介した。日本から持参した伝統的な衣服（羽織袴や履物）を身に着けて登壇した吉岡の講演は、州都ローリーで期待しうる最大規模の聴衆を喜ばせ魅了したという。その後も、ノースカロライナ州でさらに1、2回の講演を行ってから、ヴァンダビルト大学に戻って新年度を迎えている。

新聞記事では、吉岡の英語がくりかえし称賛されている。また、記事の末尾では、吉岡がもう1年間、ヴァンダビルト大学の神学部で学んだ後、南メソヂスト監督教会の宣教師として母国日本に帰って活動する予定であることが報じられている。

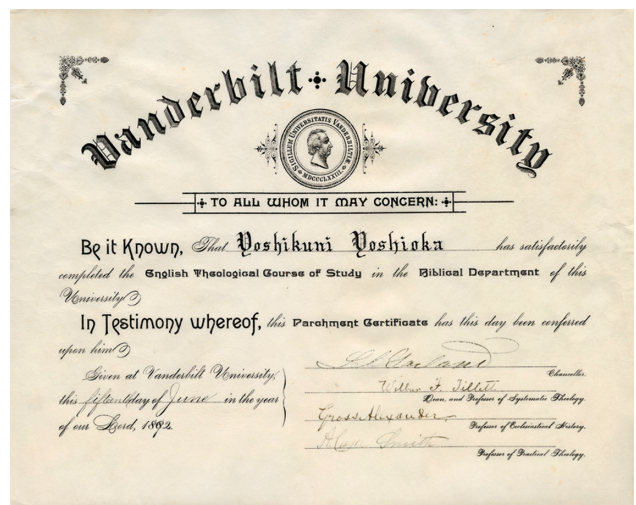
## ヴァンダビルト大学の卒業式——卒業証書と式次第から

2023年9月9日、吉岡美国の令孫 吉岡美和氏<sup>よしかず</sup>から関西学院に対し、吉岡美国の遺品をご寄贈いただいた。そのなかに、ヴァンダビルト大学の卒業証書や式次第が含まれていた。これらの新資料によって、これまで吉岡の履歴書の簡潔な記載以上には知られていなかった卒業（式）の詳細がみえてきた。

吉岡は1892年6月15日の水曜日に、ヴァンダビルト大学を卒業する。卒業式は午前10時から挙行された。礼拝堂に入場すると、まず祈禱がささげられ、次いでオーケストラによる演奏を挟みながら、学生らの代表4名がスピーチを行った。その後、卒業証書とメダルの授与があり、祝禱によって式が閉じられている。

この日、吉岡が授与された卒業証書には、ヴァンダビルト大学神学部（the Biblical Department）の英語神学専攻（the English Theological Course）を修了したことが記されている。卒業証書の右下には、総長ランドン・ガーランド（Landon Garland）とともに、組織神学・教会史・実践神学の教授3名が署名している。

こうして吉岡美国は、初代院長 W. R. ランバスの出身校でもあるヴァンダビルト大学で神学を修め、学位を得て卒業する。そして翌7月に帰国すると、同年9月に関西学院の第2代院長に就任するのである。（あかえ たつや）



吉岡美国のヴァンダビルト大学卒業証書

1 尹致昊（木下隆男訳注）『尹致昊日記2』（東洋文庫、平凡社、2022年）。

2 *The News and Observer*, Sunday, August 30, 1891. および *The News and Observer*, Tuesday, September 1, 1891.

3 本稿で言及した史資料については、今後、『関西学院史紀要』においてあらためて紹介したい。